

【 実践報告 】

人間福祉学会 活動報告

広島文教女子大学 人間福祉学会 事務局

I. はじめに

平成 30 年 10 月 8 日（月・祝）広島文教女子大学人間福祉学会を開催しました。今年も昨年度同様文教委祭が同日にあるため、多くの卒業生・在校生に参加してもらいたいとの思いから、この日の実施となりました。

今回は、「職場での人間関係の構築や連携の在り方について」というテーマを設定し、3名の卒業生にお越しいただきました。仕事内容や職場の環境や人間関係、職場以外での交流関係などについて、就職して4年目と5年目、そして7年目という、実践現場で主力として活躍している卒業生ならではの経験をもとに語っていただきました。



II. 内容概要

第1部 卒業生による実践報告

1. 障害福祉分野

9期生 中山 有里さん

（社会福祉法人三篠会 障害者支援施設白木の郷勤務 職種：ケアスタッフ）

【自己紹介, 仕事紹介】

大学を卒業後、白木の郷に就職し、今年で7年目を迎えます。障害者の生活の場を支援する、生活支援員をしています。仕事内容は、食事や入浴介助など生活全般にわたる支援です。

【職場のニーズ, 職場の人間関係】

職場の定員は95名で、フロアが1階と2階に分かれています。1フロアに約50名の利用者がおられますが、15名のショートステイ利用者もおられます。職員の人数は常勤が15名程度で、パートが5名程度、夜勤専門の職員が数名います。1日の勤務状況は、早出3名・日勤7名・夜勤2名となっており、休日は日勤が3名の時もあります。

入職した当時は、今よりも職員数が多く、先輩の中には厳しい方もいました。当時の自分は仕事ができているか不安になり、ビクビクしながら働くこともありました。仕事に慣れるにつれて、分からないことを先輩や上司に聞き確認しながら取り組めるようになってきました。現在は職員数が少ない分、互いに協力することなしに、利用者がより良い生活を送る場を提供することは難しいと考えます。そのこともあり、今の職場では協力体制が整い、皆の意識も高く、職員同士の関係は良好だと感じています。

入職時は年上の上司がたくさんおられましたが、

現在は、働いている職員の半分は20代と年齢も若くなっています。今年で7年目ということで、後輩の数も増えてきました。後輩にとっても、円滑な人間関係のもとで、協力し合いながら仕事に取り組んでもらいたいので、ことあるごとに食事に誘ったり、新人の歓迎会を開催したりしています。

施設全体で1年に5回くらい大規模な飲み会があります。その際には、多職種との交流ができるようになっています。結果、今現在はとても良好な人間関係を職場の中で築くことができているように感じます。

「人間関係において困ったこと」として思い浮かんだのは、むしろ利用者との人間関係でした。脳の障害から後遺症が残り、施設を利用されている利用者が数多くいらっしゃいます。身体は不自由なもの、思考がしっかりしておられるので、その時どきのもどかしい気持ちを職員にぶつける方もおられます。最初の1~2年は、そういった利用者との関係を築くのが特に難しく、精神的な負担を感じることも多かったように思います。利用者の側も、新人職員がどのような人物であるのか知ろうと、いろいろな探りをいれてきます。その場面で上手く対応できなかったことがきっかけとなり、その後何年も介助を拒否されるというケースがあります。いまだに時と場面によっては難しさを感じることも多いです。とはいえ、一人ひとりの利用者に対し「この方はどのような障害をもっており、どのようなことを好み、どのようなことに難しさを感じているのか」を理解しようという思いを中心に置きながら関わっていくことが大切だと感じています。

【職場以外で自分を支えてくれているもの】

職場の人と一緒に食事に行くことが多いため、プライベートという切り替えをしつつ、仕事関係の方々と繋がっていることが多いように思います。

2. 精神障害福祉分野

11期生 谷貝 実可さん

(社会福祉法人清風会 清風会つばみ障害者相談支援事業所勤務 職種：支援員)

【自己紹介, 仕事内容】

福祉サービスを利用する際に必要となるサービス利用計画の作成や、利用者と事業所との間に入って連絡調整を行うといった業務に携わらせていただいています。

【職場のニーズ, 職場の人間関係】

所属している相談支援事業所の職員数は、所長と上司と私の計3名となります。同じ建物の中にはデイサービスが併設されています。所長が兼務のため、所長の席はデイサービスの事務所にあります。そこで、相談支援事務所に常時勤務しているのは上司と私の2名だけになります。上司は落ち着いた男性の方で、人間関係で困ったことと言われても、あまり思い当たりません。親睦会が開催されるときは、デイサービスの職員とご一緒させていただきますが、それでも事業所の職員数が全部で7名と少ないのです。でもそれくらいの規模・人数が私にはちょうど良い感じでした。適度な距離を保ちながら、良好な人間関係を築けているのと思います。私の性格もあいまって、人間関係で悩むことは特にありません。

現在、私は清風会に勤めて5年目になりますが、今の相談支援事業所には2年前に配属になりました。その前は別の部署で働いていたわけです。所長を含めて5名という少ない部署で、年齢もバラバラで良い距離を保ちながら働くことができていました。例えば仕事のことで悩んだりしたら、上司、あるいは同期や年齢の近い職員と仕事終わりに食事にいったり、話をしたりしてリフレッシュしていました。これまでのところは、本当に良い環境で働かせてもらっています。

【職場以外で自分を支えてくれているもの】

先に述べたように、同期とご飯を食べに行き、互いに悩みを話したり相談しあったりしている時間は私にとって大切です。仕事に関することでは、

相談支援事業所で働いていることで、市役所や清風会以外の事業所の方々と話をする機会がたくさんあることです。安芸高田市では、仕事以外でも交流を深めようと、ここ最近1~2年の間交流会を企画してくださっています。安芸高田市や北広島町の事業所の皆さんと集まり、ご飯を食べに行ったり、バレーボール大会を開いたりしています。こういった取り組みの中で親しくなる方ができ、また、仕事を行う上で話がしやすくなった方が増えました。結果、何かが起きた際にうまく繋がりがよくなるような関係を築くことができました。

3. 高齢者福祉分野

12期生 杉原 千展さん

(医療法人社団恵愛会 介護老人保健施設 希望の園勤務 職種：支援相談員)

【自己紹介, 仕事内容】

私は、医療法人社団恵愛会の精神科病院併設の介護老人保健施設に勤務しています。相談員として、入所・デイケア・ショートステイ利用に関する相談を受けています。介護老人保健施設ということで、在宅復帰を目指して入所され、リハビリを経て自宅に戻られる方もいますので、退所後の支援も行っています。デイケアに関しては、在宅サービスを利用されている方を対象とした担当者会議に出席するといった機会があります。

【職場のニーズ, 職場の人間関係】

私は相談員として働いていますが、事務所の所属になっています。事務所では、事務員3名、私を含めた相談員2名、管理栄養士1名、ケアマネジャー1名の計7名が働いています。事務所内の人間関係は適度な距離が保たれていて、特に問題となるようなことはありません。休暇や代休も互いに協力しながら確保できています。そのような中でも土曜日に関しては、少なくとも3名が出勤できるようにしています。日曜・祝日は7名の中から交代で1名ずつが勤務に出るように決まってお

り、この勤務日についても皆で相談して決めています。

施設は4階建てで、1階には事務所とデイケア、厨房、食堂のフロアがあり、2・3階は入所施設やショートステイのフロア、4階には機能訓練室があり、4名のリハビリ職員がいます。現場で介護職や看護職と頻繁にコミュニケーションをすることは少なく、仕事以外で個人的に食事に行くようなこともありません。

【職場以外で自分を支えてくれているもの】

職場以外で自分を支えてくれているものは何かあるかとはばらく考えていて…「そういえば」と思いついたものを話します。私は中学校から吹奏楽を続けてきていました。大学に入ってからアマチュアの吹奏楽団に所属し、今も続けています。毎週1~2回、夜に練習の時間があり、夏のコンクールにも出場しています。70名くらいが所属している楽団なのですが、今でも続けることができているのは、この楽団での活動を楽しんでいるからなのだと思います。また、楽団の中にはさらなる高みを目指している方が多く、そのような環境の中で、自分も刺激を受けながら成長できている部分があります。大会が終わった後の打ち上げや、同じパートのメンバーとの食事もあります。そこでは色々な職種、幅広い年齢層の方との関わりが生まれ、様々な話を聞き、新鮮な発見があるため楽しいですし、勉強になることも多いです。他にも、高校時代の友人と会い、当時の話をしたり、お互いの現在の職場での話を聞いたりする機会があります。このような職場以外の繋がりが自分を支えてくれていると感じています。

私は大学4年生の時に安佐北区の社会福祉協議会で実習をさせていただきました。ちょうど実習中、2014年8月20日に豪雨災害が発生したことから、ボランティアセンターでの業務に携わらせていただいたのです。同じくこの時期に実習をしていた他大学の学生がおり、その方と仲良くなりました。また、実習の中で地域のNPOの方や社協の職員など多くの方々との関わりが生まれました。

実習で出逢った方々とは、今でも数か月に一回は顔を合わせています。災害の発生からもう4年が経ちますが、このような関係が続いていること自体、よく考えたらすごいことだと思っています。職場以外の方に会ったり、他の分野の仕事の話を聞いたりすることで勉強になり、たくさんの刺激をもらっています。

第2部 グループディスカッション

1. 参加者の経験談

2期生 榎尾 明子さん

私は現在札幌に住んでおり、東京での研修会に参加したその足で広島に昨夜帰ってきました。広島で2018年の7月に豪雨災害が起きてから、これまで広島に帰ることができていなかったため、災害後初の帰省となりました。実家が被災したのですが、自分がかつて幾度となく通った道が未整備のまま残されており、辛い思いをするとともに、この状況の中で皆さんがさまざまに力を尽くされたのだらうと感じさせられました。

先ほど、報告者の皆さんが「戻れる場所としての大学」について言及されました。私自身もそういった感覚を持っています。私自身のこれまでの経験と重なる話や報告者の現場での話を聴く中で、「私もこういうことを考えてみよう」と奮い立たされるところがあり、初めてお目にかかるにも関わらず、仲間意識を持てる、「ここに仲間がいる」という気持ちでいまお話ししています。

現在は精神科診療所でソーシャルワーカーをしています。卒業してから3つ目の職場になります。遠く離れた場所ですが、ソーシャルワーカーの仕事の続けることができています。札幌の皆さんや、こうして広島で会える人がいて、応援してくれる人がいるおかげだと思っています。

過去2つの職場では、上司との人間関係に苦労しました。私が上司からの期待に応えることができなかったことが原因だと感じています。一方、

今の職場に勤めて7年目になりますが、職場での人間関係に悩むことはあまりありません。これまでの職場との違いを考えると、特に今の職場では、職員が互いのことを理解しようと努めている気がしています。一方通行のコミュニケーションにとどめず、自分自身がどのような状況にあるのかを相手に伝えることはもちろん、相手がいまだどのような状況であるのかを自分から積極的に知ろうとする姿勢が皆で実践できています。

「理想の職場とは」を考えたとき、私には、自分自身や相手の情けない部分も含めて、互いに心を開いて語り合える文化が職場に築かれているのが大切であるとの思いがあります。職員同士がギクシャクしてしまうのは、互いの語りが圧倒的に少ない時です。私自身、誰にも語らなくなった時、体調を崩したり仕事を辞めなくなったりすることがありました。これからは、自分が不安だったり、迷ったりしているという思いをしっかりと周りに発信して、また、私の方でも周りの思いを受けとめて、互いに語り合うことを大切にしていくなような職場をみんなで作っていききたい、という思いがあります。

《溝淵先生》

今の榎尾さんの話を聞いて、面接技法のアイメッセージが思い浮かびました。「私は…」を主語にしたメッセージを伝えることです。色々な人たちがそれぞれのチームで「私は…」を主語にしたアイメッセージを伝え話し合うことが大切です。私はこう思う」と言った時に「他の人はみんなこう言っているよ」という形で、その人自身の言葉ではないかたちで返されると、結局すれ違ってしまいます。それぞれの人の顔が見える形で、「私は…」の意見を出し合い、会話ができる関係づくりは大切なのではないかと、改めて感じさせられました。他の方はいかがですか。

4期生 村上 梢さん

私は卒業後、社会福祉法人で3年勤め、その後

結婚のため退職しました。今は別の職場に再就職して5年目となります。勤務経験は全部で8年くらいですが、それぞれの職場で人間関係に悩みつつ仕事をしてきました。専門職として就職した自分と、勤務年数的には短いものの、「人生の先輩」である職員との、利用者に対する考え方の違いに悩みました。また、自分のキャリアが蓄積していない間は、「学校ではこういう風に習った」、「こういう風にするのが理想的だ」ということが頭ではわかっているものの、実際の現場での支援に反映できないという現実があります。加えて、自分には主張したり説得したりする力が足りていないことがわかっているので、苦しさが増していきます。そのような中でも、周囲は私に対して「専門職」としての役割や仕事を求めてきます。結局上手いかないため、悩みはより深まっていきました。先ほど皆さんが「外部の人が」、「周りに支えられて」とおっしゃっていたように、私についても、同期の友達と勉強会で顔を合わせる際に話をしたり、多くの卒業生が集まる、中村卓治先生が運営されている勉強会に参加するなどしていました。そして、その中で実際に支えられましたし、得るものが多くありました。

現在は職場の人間関係というよりも、自分自身の力の使い分けに悩んでいます。結婚をして、現在子どもが3人いる中で、母としての役割や、地域の中での役員といったものも担っています。また、やはり仕事をするからには、しっかりと責任をもって仕事に臨みたいという気持ちが強くあります。しかし、そのためには、法改正や時代の変化等を常に意識しながら学び続ける姿勢が大切です。この家庭と仕事の両立が難しいと感じています。勉強したり仕事を充実させたいという気持ちはあっても、やはり母親としての役割を果たさなければなりません。欲張りになってしまうと、どこかに亀裂が生じてしまいます。そういう意味では、今自分は中途半端な状況にあると感じています。しかしだからこそ、焦ることなく少しずつ、色々な人と知り合い、ネットワークを広げていきたいと思っています。

この学会などの機会に、自分が担当させていた実習生に久しぶりに会うことをうれしく思います。皆さんが福祉現場で頑張っている姿を見ると勇気づけられます。

《溝渕先生》

実習指導をお願いする卒業生が増え、多くの方から、実習生の姿に刺激を受けると伝えていただく機会も多く、ありがたいと感じています。先ほど、卒業生が集まる場が居場所となっているという言葉が聞きました。そこで卒業生に対して勉強会・研究会の機会を提供されている中村卓治先生に話を伺いたいと思います。

《中村卓治先生》

ソーシャルワーカーとして現場で働いている卒業生の支援として何かできないかと考え「BSS(文教ソーシャルワーク研究会)」を立ち上げ、運営しています。現在20数名ほどの登録者があり、隔月の日曜午後に集まって意見交換や勉強会を行っています。働き続けるためにはわかりあえる者同士の横のつながりが大切だと考えていますので、このような活動が、卒業生同士で語り合える場となればと思っています。

《総評：塚村先生》

実践現場で上司から怒られることが当たり前であるし、自分自身もそのことを受け止めて当たり前…といったような時代がかつてありました。しかし今は、全て自分が悪いと思わなくて良い時代だといえます。

仲間同士との関係が築けることはとても良いことですし、女性が社会進出し、多くの職場が昔ながらの男性社会では無くなってきているようにも感じます。

職場で何かしらのストレスを抱えた時、その人が仕事一筋でやっているような状況だと、気が滅入ってしまいます。そのため、卒業生が発表されていたように、自分自身のための時間を確保し、その時間とのバランスを取りつつ、楽しみながら

働くことが大切です。仕事以外に、多くの仲間や腰を据えて取り組むことのできる趣味をみつけて、ストレスをためないようにしながら、これからも福祉の現場で働き続けて欲しいという思いです。

Ⅲ. 総括

卒業生が本学に帰ってこられた際に、「職場の人間関係に悩んでいる」との声が多く聞かれました。一方、在校生に対し、就職するにあたって不安なことについて話を聴いてみると、「職場の人間関係」という答えが必ず出てきます。これらのことをうけ、今回の学会では、「職場での人間関係の構築や連携の在り方について」というテーマを掲げ、卒業生に話をさせていただきました。

登壇してくれた3名の卒業生、そして、学会にご参加いただいた皆さんも、職場や福祉という分野だからこそ生じる悩みだけでなく、日々の生活に関わる面で悩み、自分自身に向き合っている様子を感じることができました。その一方で、皆さんが自分なりにいろいろと試行錯誤しながら、自分にとっての働きやすい環境を考え、自らの行動によって創造しようとされているという印象をもちました。その中で、「人間福祉学科やこの学会で出逢い、つながった仲間同士と励まし合い、また、刺激や癒しを与え合いながら頑張っている」、あるいは、「この大学や学会が居場所として機能している」といった意見をいただけたことは、本学会事務局として大変嬉しいことでした。文教生のつながり、福祉専門職のつながり、趣味や旧友等、さまざまな人とのつながりとその大切さを、あらためて実感する機会となりました。

今回は塚村英幸先生に総評をお願いしました。塚村先生は本学に長年勤務され、現在も非常勤講師として本学にお越しいただいております。先生の変わることのない優しいお人柄とともに、「よく頑張っているよ」といったメッセージを投げかけてくださったことで、これまで取り組みを認めていただいたという、ある種の「充実感」のような

ものを感じる機会となったのではないのでしょうか。これから社会へと旅立つ在校生、そして、卒業して日々葛藤しながら業務に向き合っている卒業生にとって大きなエールとなりました。

今後もこれまで通り、卒業生と在学生の「タテの繋がり」を活かし、参加者に安心してもらい、かつ、今後考え続け、自ら向き合っていただく何かをもたらすような取り組みを続けていきたいと考えています。来年度も実りある学会になるよう、より多くの在学生、卒業生の参加を期待しています。